

神は純粋な心を愛する

グルマール・チッドヴィラーサーナンダ

抜粋4

クリシュナ神がアルジュナに与えた第2の定義は、「ヨーガ・カルマス・カウシャラム」。「ヨーガは行動における熟練した技である」です。この1節でアルジュナは、善悪どちらかの行為のとりこになることなく、ヨーガに専心するよう求められました。

多くの人は、いかに自分が正しく、いかに他の人が間違っているかを示すため、極めて攻撃的に行動します。いかに自分の意図が正しく、いかに他の人は破壊的であり利己的であることを証明しようとしします。それ故、彼らの行動に純粋さはありません。それは独善的な態度で汚されています。このような行為をしたことがありますか。行動そのものが正しかろうと間違っていようと、良かろうと悪かろうと、一般的に言って、人は自分だけ優位に立とうと努力します。身に覚えがありますか。このように振る舞う人たちは——たいていの人がやっているのですが——ジャングルのおきてに従って生きています。弱肉強食。声高にしゃべる人が勝ちます。ですから、たまたま彼らの行為の多くが結果的に良いものになったとしても、彼らがヨーガに確立しているとは言えません。

ヨーガは行動における熟練した技です。覚えていますか。この熟練した技とは一体何でしょう。これは低次の自己と高次の大いなる自己を区別する英知です。あなた自身の動機を識別し、自分自身の栄光のために行動しているのか、あるいは自分が住んでいる世界の利益のために行動しているのかを見分けることができる技です。自分自身の無知の暗闇と闘い、英知という光に目を向ける力です。誘惑を寄せ付けず、高潔さをもって行動する能力です。

もちろん、あらゆる種類の障害が生じてくるでしょう。それが自然の法則というものです。毎朝早起きして瞑想しようと思った瞬間に、百万の緊急事態が発生します。もし、ヨーガに揺るぎなく確立していなければ、それらの障害をかわし、最高のダルマを実行する技術や靈妙な能力を育むことは決してないでしょう。精神修行を実践するためには、とてつもないスタミナを要します。物事は必ずしも自分が計画した通りにはなりません。実際、ほとんどそうはなりません。ですから、用心しなければなりません。自分の良いカルマや先祖から受け継いだ功德に頼ることはできません。自らの大いなる自己のみに頼ることを学ばなければなりません。そのためにヨーガを実践するのです。

ある素晴らしい作家がかつてこう言いました。「もし船が入って来ないのなら、そこまで泳いで行きなさい」。これが行動のヨーガです。大半の人はこのようにしません。彼らは2セントの価値しかない助言をして、見返りに何百万ドルもの好意を期待します。彼らは一つ親切な行いをして、どうして宇宙は自分に感謝しないのか不思議に思います。人々が自分のしたこととその行いに見返りを期待したり、または何もしないで見返りを期待するのには驚くばかりです。自分の人生を楽園にするために不断の努力をしたがる人はいませんが、他人には自分のために骨を折ってほしいと思っています。「どうして来なかったの。ずっと待っていたのに。どうして電話をくれなかったの。どうして誕生日に手紙をくれなかったの。どうして。どうして、これをしなかったの。どうして、あれをしなかったの。どうして優しい言葉を掛けてくれないの。どうして。どうして私のために歌を全然歌ってくれないの」

素晴らしいことすべてを行うべきなのは、いつも他の誰かです。他の人たちは通常「彼ら」と呼ばれます。「彼ら」はまたすべての崇高な徳も育むべきなのです。結局あなたは、このような徳を必要とするのは「彼ら」なのだと、自分に言い聞かせます。そうでしょう。



グルマ－イ・チツドヴィラーサーナンダ著『神は純粋な心を愛する』第 3 章「ヨーガに揺るぎなく確立する」(SYDA Foundation 2005) 35～36 ページ